

緊急住宅会議 第7回会議 議事録

日 時：2014年7月18日 18:00~20:00 場 所：内野設計万代町事務所

- 前回の議事録確認（資料1）
- 福島での板倉構法の現場ビデオ鑑賞。（資料2）
- 「人口3割減時代のレジリエント・コミュニティへ資する集団移転の計画論と再定住モデル」と、用語の説明（資料3）
 - ・建築関係者が検討を重ねても土木工事で単純化されてしまう例が後を絶たない。
- メガソーラーの活用を考える（資料4）
 - ・ソーラーパネルを設置するために使われる敷地の有効利用としての提案。
 - ・メガソーラーオーナーに働きかけてはどうか。
- 手刻みの話
 - ・木造住宅の総工事費2.5億円/年の会社で、プレカット工法なら大工さんは5人いれば足りるが、手刻みだと9人必要。
 - ・長尺材が使える、仕口がきつくなり揺れない、など、施主にはメリットを言う。
 - ・坪単価 プレカット：5000円/坪 手刻み：15,000円/坪
 - ・加工場所、廃材処分費他含め、6~70万の差が出る。（40坪程度の住宅）坪2万。
 - ・「育てる」という発想が大事。いなくなる前に。
 - ・最近では階段もプレカット。手刻みを覚える場面がない。
 - ・新築はプレカットでいけても、リフォームには手刻みの技術が必須。ストック活用と
いいながら、職人育成をしないのでは片手落ち。
- 事前復興→木材備蓄→山の復興（資料5）
 - ・四寸角の家・・・徳島は柱の生産量が少ない。
 - ・板を得意としてきた徳島では、元玉から太らせて体積を大きくしてきた。
 - ・板材の備蓄は今でもされている。
 - ・柱材を効率よくとるには、密植させて、元末の差を小さくする。
 - ・四寸角材がとれるのは三番玉あたりの径が16cm~20cmのあたり。
 - ・太い部位からは芯去りで2本、4本とる必要がある。
 - ・四寸と制限しすぎるのは？→一番不自由な状態で考えておいて緩める。
 - ・柱産地でなくても、柱をつくれれば売れるとなれば変わる可能性はある。
- 意見交換
 - ・伐っても再植林できない。維持がやっとな。50年生と80年生、価格の差がない。
 - ・京都議定書の目標達成のため間伐を助成してきたが、建築として二酸化炭素を固定することへの認識が浸透し、皆伐へも力を入れられる体制になってきつつある。
 - ・近年、植林量はないに等しい。植えても鹿に食べられる、植える人がいない。鹿が食べない大きさに、一年生まで育てて植えられたら。しかし高価。鹿害対策への助成は、フェンス本体代のみ。
- その他
 - ・次回、8月29日（金） 19:00~ @内野設計万代町事務所